

孫育児に参加する祖父母が持つ孫育児支援に対するニーズ

石 井 邦 子 (千葉県立保健医療大学)

井 出 成 美 (山梨県立大学看護学部)

佐 藤 紀 子 (千葉大学大学院看護学研究科)

林 ひろみ (千葉県立保健医療大学)

研究目的は、乳児期にある孫を持つ祖父母の孫育児支援に対するニーズを明らかにすることであった。孫の出産を控えたまたは1歳未満の孫育児に参加している祖父母11名に対し、これまでに受けた孫育児支援の実際や孫育児支援に望むことに関する半構成的面接を行い、孫育児に関する思いと孫育児支援に対するニーズ及び孫育児支援に対する反応に関連する文脈を抽出し、サブカテゴリー、カテゴリーを形成した。

抽出されたコードは178であり、34のサブカテゴリーを経て、孫育児に関する思い6、孫育児支援に対するニーズ4、孫育児支援に対する反応1の、計11のカテゴリーに集約された。カテゴリーは、【孫育児を励みにする】、【育児する親を気遣う】、【育児する親を支える】、【経験を基に孫育児の方法を決定する】、【加齢に伴う身体的・精神的負担がある】、【孫育児に関する情報や技術を求める】、【他の祖父母の話を知りたい】、【情報を基に孫育児の方法を決定する】等であった。

乳児期にある孫を持つ祖父母は、育児に関する新しい情報を得られる場、他の祖父母との情報交換の場を求めており、孫育児に参加したいという思いや、孫育児を励みにしていることがその背景にある。また、若い親たちの育児を支える支援者として機能したいと望んでおり、若い親たちとの関係性を良好に保つことが、孫育児に関する新しい情報を求める理由のひとつになっている。祖父母たちは、新しい情報を自己の育児経験を基に吟味して、得られた情報の取捨選択をしており、そのプロセスにおいて、自分と同様の立場にある祖父母との交流が、孫育児方法の決定を促進していると考えられる。

KEY WORDS : grand parenting, support program, grandparents' needs

1. はじめに

少子化、核家族化が進む今日、乳幼児との接触経験が少ない親たちが十分なサポートを得られずに孤独な状況で育児をしている現状が、育児不安や育児ノイローゼ、乳幼児虐待の原因のひとつとなっている。行政や保健医療機関における育児支援サービスが拡充されているものの、育児にまつわる問題は減少していない。

一方、父親・母親の実父母を含む大家族の協力のもとで育児が行われるわが国の伝統的スタイルは、今もなお一般的である。平成17年に実施した全国調査において、産後の退院先が母方の実家である者が半数以上であり、産後1ヶ月間の主な援助者が親である者が76.0%と最も多かったことが報告されている¹⁾。この傾向は年々強まり、実家への滞在期間または親による援助の期間が延長している。

育児における最も重要なサポート提供者が祖父母であることから、昨今、祖父母教室等の祖父母を対象とした

育児支援プログラムが実施されるようになってきた。その背景には、必ずしも祖父母のサポートが有効に機能していないという問題がある。白井²⁾は、第1子出産後に実母のサポートを受け1か月が経過した母親に対する調査から、母親の支持的かつ受容的サポートが娘の育児ストレスを和らげ肯定的役割移行を効果的にするが、支配的、回避的、娘の意思を尊重しない等のサポートは母娘関係の緊張や母親の児に対する愛着障害のリスクとなると報告した。角川³⁾は、1歳半の子どもを持つ母親に対する調査から、身近に祖母の存在があり子育てにおいて祖母がキーパーソンになっているものの、約1割が祖母との育児観の違いからストレスを感じており、半数の母親が祖父母学級の開催を希望していると報告した。

このように、祖父母が孫の育児のサポート者として関わることの問題点が祖父母のサポートを受ける母親の視点から提示されてきた経緯から、祖父母に対する育児支援は、親たちが求めるサポートを祖父母が提供できることを目的とする傾向がある。親たちが持っている最新の育児情報を祖父母に提供し、親たちの育児方針を理解し尊重することを促すことが中心となっている。

しかし祖父母は、育児する親たちの支援者であるばかりではなく、孫の育児に関与する当事者でもある。祖父母にとって、孫の育児に関与することは、新しい生きがいとなる。祖父母は、孫の育児に関わって親たちを支援したいという希望を持ち、すすんで孫の育児に参加している⁴⁾。

エリクソン⁵⁾は、老年期の発達課題である「自我の統合性」が、若い世代と関わり祖父母生殖性を発揮することによって促進されると述べている。祖父母生殖性は、「親としての生殖性に固有の責任は負わずに、孫たちを導き、愛し、世話し、役に立ってあげることができる」という意味であり、世の中を維持し、永続するための中年期の責任から自由になって孫の世話をすることである」と定義されている。稲谷⁶⁾は、高齢者が祖父母機能をより多く果たしていると自覚するほど、他者との関係に安心感や満足感が得られ、自己の在り方や人生を受容し、人生に対して展望や目的を持ち、老いや死に対する恐怖が低くなるといった、心理的ウェルビーイングが向上すると報告している。

現役世代以降の心身の健康が求められる高齢社会において、孫育児の成功は、自分の歩みを再評価し価値づけ、人生の喜びや満足感をもたらすと考えられる。しかし、孫育児が必ずしもスムーズにいくとは限らず、孫との関係、親との関係の中で新たなストレスや困難が生じる場合もあることが推測される。これまで、孫育児に関与する祖父母のニーズや健康問題に関する報告はほとんどない。祖父母が孫育児を通して次世代の育児を支える役割を遂行できるための支援には何が求められているのか、祖父母の視点からのニーズを明らかにすることは、祖父母役割達成によるQOL向上を可能にする意義がある。孫の育児への関与を通して、次世代の親役割遂行を支えるという社会的役割を担い、その役割を達成することで祖父母たちは自らのQOLを向上させることができると考えられる。

II. 研究目的

本研究の目的は、乳児期にある孫を持つ祖父母が主体的に孫育児に取り組み、次世代の家族育成を支援するとともに、その実現を通して自らのQOL向上ができるような孫育児支援プログラムの開発に向け、孫育児に参加する祖父母が持つ孫育児支援に対するニーズを明らかにすることである。祖父母自身が自覚しているニーズだけでなく、潜在的ニーズも把握するために、祖父母の孫育児に関する思い、孫育児支援に対する要望、孫育児支援に対する反応について調査する。

III. 用語の定義

孫育児に関する思いとは、孫育児参加の実際やその予定から生じる認識や感情及びそれらによって引き起こされた行動をいう。孫育児支援に対する要望とは、看護者が実施する孫育児支援に対する希望や期待をいう。孫育児支援に対する反応とは、孫育児支援を受けた結果生じた認識や感情の変化、孫育児支援を受けて起こした言動をいう。

孫育児に関する思いは、個人の孫育児参加の方法や孫育児参加の受け止めを形作る根源を成すものであり、孫育児支援に対する要望及び反応に影響する。

IV. 研究方法

1. 研究対象

研究対象は、1歳未満の孫育児に参加している祖父母、あるいは孫の誕生を控えて孫育児の準備期間にある祖父母であった。孫育児支援の実績があり研究協力の承諾が得られた保健医療機関からの紹介と研究メンバーのネットワークサンプリングで研究対象候補者を選定し、文書を用いて研究の趣旨と依頼内容、倫理的配慮について説明し、研究参加の承諾が得られた者を研究対象者とした。

2. 調査方法・調査内容

調査方法は質問紙法と半構成的面接法であった。

調査内容は、年齢、性別、健康状態、職業、家族構成、孫との関係、孫の月齢、家族構成、孫育児経験の有無とその内容について、質問紙法にて調査した。孫育児参加の実際あるいはその予定、孫育児に関する思い、これまでに受けた孫育児支援の実際、孫育児支援に望むことについて、半構成的面接法にてデータを得た。

3. 分析方法

分析は、逐語録から、「孫育児に関する思い」「孫育児支援に対する要望」、「孫育児支援に対する反応」、に関連する文脈を抽出し、意味内容を損なわないように抽象度をあげて要約し、コードとした。コードの同質性・異質性によりサブカテゴリー、カテゴリーを形成した。

分析の妥当性を確保するために、コードの作成およびサブカテゴリーとカテゴリーの形成は、孫育児支援に精通した研究チームによる討議を経て行った。

4. 倫理的配慮

倫理的配慮は、データは全て匿名化すること、プライバシーの確保を行うこと、得られたデータは研究目的以外には使用せず研究終了後に安全に破棄すること、研究参加の辞退及び途中辞退の権利があること等を説明した。本研究は研究代表者の所属機関の倫理審査委員会の

承認を得て実施した。

V. 結果

1. 対象者の特性

研究対象者は11名であり、女性8名、男性3名であった。平均年齢は59.9歳であり、日常生活に影響する健康障害を有する者が3名含まれていた。孫の誕生日前が1名、他の10名は生後1～14か月の孫の育児に関わっていた。過去に孫育児経験があるのは1名だけであった。

対象者11名のうち、10名が何らかの看護職による孫育児支援を受けていた。祖父母教室に参加した者が1名であり、他の9名は育児に関するパンフレット等の媒体による情報提供と孫育児に関する個別の相談対応を受けていた。個別の相談対応は、妊婦健診や母親学級に同行した際、産後の母子入院中の来院時、他の目的で保健医療機関を訪れた際に、祖父母の求めに応じて行われていた。対象の背景を表1に示す。

2. 孫育児に関する思い

抽出されたコードは71であり、17のサブカテゴリー、6のカテゴリーに集約された。カテゴリーは、【孫育児を励みにする】、【育児する親を気遣う】、【育児する親を支える】、【経験と異なる育児に戸惑う】、【経験を基に孫育児の方法を決定する】、【加齢に伴う身体的・精神的負担がある】であった。孫育児に関する思いのカテゴリー、サブカテゴリー、コードの例を表2に示す。

各カテゴリーについて以下に述べる。【 】はカテゴリーを、〔 〕はサブカテゴリーを、「 」はコードを示す。

1) 【孫育児を励みにする】

祖父母たちは孫育児を通して、「自分の子育ては必死だったが今はゆとりがある」、「ダイレクトに携わるのではなく、一線をおいて見られるのが楽しい」と〔親とは違う喜びを感じる〕と認識していた。また、「すくすく育ってくればそれだけでいい」と〔健やかな成長を願う〕気持ちを持ち、「孫が二十歳になるまで元気でいたい」といった〔孫の存在が励みになる〕と感じていた。

2) 【育児する親を気遣う】

祖父母たちは親たちの育児と自分の育児との対比から、「昔は周りのお母さん同士で助け合っていたが今はそれが少ないから大変だ」と〔親たちの苦労を気遣う〕気持ちを持ったり、「こうでなければだめというのがたくさんあって、ノイローゼにならなければいいと心配になる」と〔のんびり育児をしてほしい〕という気持ちを抱いたりしていた。

また、嫁との関係においては、「かわいいからと余計

表1 対象の背景 (n = 11)

項目	人数	項目	人数
居住地		孫との関係	
都市部	5	娘夫婦の子	9
郡部	6	息子夫婦の子	2
年齢		孫の月齢	
50代	7	誕生日前	1
60代	3	1か月未満	1
70代	1	1～6か月	1
性別		6～11か月	6
女性	8	1歳以上	2
男性	3	孫との同居	
健康状態		同居	3
良好	8	別居（近隣）	6
障害あり	3	別居（遠方）	2
職業		孫育児経験の有無	
なし	5	なし	10
あり	6	あり	1

なことをしたらお嫁さんは嫌と言えなくてストレスになる」、「母娘だと結構平気で言えるがお嫁さんだと遠慮する」と、良好な関係を保つために「嫁を気遣う」という気持ちを抱いていた。

3) 【育児する親を支える】

祖父母たちは、孫の養育に関して「何もかも親任せではなく、ある程度は自分たちでしないといけないと思う」と親たちが親として成長する必要性を感じていたり、「娘たちはいろいろな知識を持っているから任せきっている」と親たちの育児遂行能力を尊重しており、その結果、〔親たちに任せる〕というスタンスを保っていた。その上で、「いつもそばにいて声をかけられた時に助けられれば一番いい」、「いろんな形で足りない部分を助けてあげたい」と、〔必要とされた時にサポートしたい〕と考えていた。そのサポートは、「孫が風邪気味の時に、自分の経験を基に相談に乗る」や「子どもは毎日成長している、親も毎日新しい気持ちで接してごらんとする」など、〔経験を生かしてアドバイスする〕というものであった。

これらのサポートやアドバイスが親たちとのトラブルになる危険性があることを予測して、「違ったやり方をしてもお嫁さんは言えない。共通の情報があつたらトラブルが避けられる」と、〔共通の情報を持ちトラブルを避けたい〕と考えていた。

4) 【経験と異なる育児に戸惑う】

祖父母たちは、自分の育児と異なる育児方法に出会うことで〔昔との違いに戸惑う〕と感じていた。その内容は、「お風呂の後に湯ざましを飲ませなくていいと聞き、大丈夫なのかと思う」、「藤籠に赤ちゃんを入れたり前

表2 孫育児に関する思い

カテゴリー	サブカテゴリー	コードの例
孫育児を励みにする	親とは違う喜びを感じる	・自分の子育ては必死だが、今はアルバムを見るように眺めているゆとりがある ・ダイレクトに携わるのではなく、一線をおいて見られるのが楽しい
	健やかな成長を願う	・すすすく育ってくればそれだけでいい
	孫の存在が励みになる	・孫が二十歳になるまで元気でいたいと励みになる ・親の小さい頃とそっくりだから余計にかわいい
育児する親を気遣う	親たちの苦勞を気遣う	・昔は周りのお母さん同士で助け合っていたが今はそれが少ないから大変だ ・孫ができて娘がこの先20年間子育てしなくてはいけなくて大変だと思う
	のんびり育児をしてほしい	・こうでなければだめというのがたくさんあって、ノイローゼにならないと心配になる
	嫁を気遣う	・かわいいからと余計なことをしたらお嫁さんは嫌と言えなくてストレスになる ・母娘だと結構平気で言えるがお嫁さんだと遠慮する
育児する親を支える	親たちに任せる	・何もかも親任せではなく、ある程度は自分たちでしなないといけないと思う ・娘たちはいろいろな知識を持っているから任せきっている
	必要とされた時にサポートしたい	・いつもそばにいて声をかけられた時に助けられれば一番いい ・結局はヘルプだから、いろんな形で足りない部分を助けてあげたい
	経験を生かしてアドバイスする	・孫が風邪気味の時に、自分の経験を基に相談に乗る ・子どもは毎日成長している、親も毎日新しい気持ちで接してごらんとする
	共通の情報をもちトラブルを避けたい	・違ったやり方をしてもお嫁さんは言えない。共通の情報があつたらトラブルが避けられる
経験と異なる育児に戸惑う	昔との違いに戸惑う	・お風呂の後に湯ざましを飲ませなくていいと聞き、大丈夫なのかと思う ・藤籠に赤ちゃんを入れたり前抱っこしたり、今風だなと衝撃的だった ・女の子しか育てていないから、男の子について歩くのは容易じゃない
	離乳食の違いに戸惑う	・離乳食には味付けしないと娘から言われギャップを感じた ・果汁は本当にあげなくていいのか、あげるとしたらいつからか
	紙おむつに戸惑う	・娘に紙おむつでいいといわれ、今の人は違うと思った ・紙おむつだと外れるのが遅れても大丈夫と聞き、昔と違うと思った
経験を基に孫育児の方法を決定する	自ら情報を得る	・育児雑誌が置いてあると今はどうなのかとみてる ・孫がいる自分のきょうだいからいろんなことを聞いた
	経験を生かして育児をする	・自分の育児を思い出しながらやっている ・一生懸命にならなくても何とかなると知っているから必死にならない
加齢に伴う身体的・精神的負担がある	加齢に伴う身体的負担がある	・長時間のおんぶやまっすぐの抱っこは腰に来たり体がきつくてできない ・夏で暑いし年をとってからの孫だから、世話ができるかとても心配した
	加齢に伴う精神的負担がある	・孫が大きくなったときに若いお母さんたちの中に自分が入っていけるか心配

抱っこしたり、今風だなと衝撃的だった」、[女の子しか育てていないから、男の子について歩くのは容易じゃない]と、沐浴、沐浴後の湯ざまし、ベビー服、子どもの遊びや生活習慣、妊娠中や産後の摂生や食事と多岐にわたっていた。中でも多かったのが、「離乳食には味付けしないと娘から言われギャップを感じた」、[果汁は本当にあげなくていいのか]といった[離乳食の違いに戸惑う]ということや、「娘に紙おむつでいいといわれ、今の人は違うと思った」、[紙おむつだと外れるのが遅れても大丈夫と聞き、昔と違うと思った]といった[紙おむつに戸惑う]ということであった。

5) 【経験を基に孫育児の方法を決定する】

祖父母たちは、「育児雑誌が置いてあると今はどうなのかとみてる」や「孫がいる自分のきょうだいからいろんなことを聞いた」というように[自ら情報を得る]ための行動を起こしていた。

また、「自分の育児を思い出しながらやっている」という取り組みや、「一生懸命にならなくても何とかなると知っているから必死にならない」というように、[経験を生かして育児をする]ということもしていた。

6) 【加齢に伴う身体的・精神的負担がある】

祖父母たちは、孫の養育に伴い、「長時間のおんぶやまっすぐの抱っこは腰に来たり体がきつくてできない」ということや、「夏で暑いし年をとってからの孫だから、

表3 孫育児支援に対する要望

カテゴリー	サブカテゴリー	コードの例
孫育児に関する情報や技術を求める	育児に関する新しい情報がほしい	・今の若いお母さんたちが知っていることで昔とは違うことを知りたい ・子育てをしたのは30年も前のことだから、子育てがわからなくて当然
	離乳食について知りたい	・甘いものはダメと知っていればあげないのだから、情報があつた方がいい ・食事は何をあげたらいいのか、すっかり忘れていたから知りたい
	人工栄養の方法を知りたい	・昔は哺乳瓶の消毒などちゃんとしてなかったし、手伝うこともあるだろうから哺乳瓶の消毒を教えてほしかった
	事故防止や対処の方法を知りたい	・誤飲などのとっさのときの対処方法を知っていれば役に立つと思う ・目を離したときに、孫がコーヒーをひっくり返したりしたらどうしよう怖い
	孫の成長について知りたい	・月齢に応じた標準的な成長を情報として持っていれば、孫の成長に気づけて楽しみになる
	習い事や教育について知りたい	・小学校で英語が入るなど勉強も変わってきているから、いつごろから教えたらいいのかと思う
	育児支援制度について知りたい	・保育園や医療などの制度について、生まれる前に知っておきたかった
	ペットについて知りたい	・赤ちゃんや犬と一緒に大丈夫か、犬がやきもちを焼かないかが心配
	育児を体験したい	・沐浴の仕方を忘れていたから練習したかった
他の祖父母の話を知りたい	他の祖父母の話を知りたい	・他の祖父母がどんな心配をしているのかという話を聞きたい ・他の人の悩みや喜びが聞けたら、役に立つし励みになる
自分のペースに合わないと感じる	無事に生まれるまで育児は考えられない	・生まれるまでは無事に産まれてくれることで頭がいっぱい、育児のことは考えていなかった
	都合がつけば参加する	・週末や夕方に集まりがあれば、孫のために行くと思う ・仕事を休んでまでは祖父母学級には行かない
祖父母同士の交流を求めない	他の祖父母との交流を求めている	・祖父母同士の交流がなくても困っていない ・祖父母の集まりに夫は行きたがらない

世話ができるかとても心配した」といった〔加齢に伴う身体的負担がある〕と感じていた。同時に、「孫が大きくなったときに若いお母さんたちの中に自分が入っていけるか心配」といった子育て世代とのギャップを予測して〔加齢に伴う精神的負担がある〕と感じていた。

3. 孫育児支援に対する要望

抽出されたコードは84であり、13のサブカテゴリー、4のカテゴリーに集約された。カテゴリーは、【孫育児に関する情報や技術を求める】、【他の祖父母の話を知りたい】、【自分のペースに合わないと感じる】、【祖父母同士の交流を求めない】であった。孫育児支援に対する要望のカテゴリー、サブカテゴリー、コードの例を表3に示す。

各カテゴリーについて以下に述べる。

1) 【孫育児に関する情報や技術を求める】

祖父母たちは、「今の若いお母さんたちが知っていることで昔とは違うことを知りたい」、「子育てをしたのは30年も前のことだから、子育てがわからなくて当然」という理由から、〔育児に関する新しい情報がほしい〕と考えていた。その内容は、〔離乳食について知りたい〕、

〔人工栄養の方法を知りたい〕、〔事故防止や対処の方法を知りたい〕、〔孫の成長について知りたい〕、〔習い事や教育について知りたい〕、〔育児支援制度について知りたい〕、〔ペットについて知りたい〕と多岐に渡っていた。

また、「沐浴の仕方を忘れていたから練習したかった」と、〔育児を体験したい〕という希望もあった。

2) 【他の祖父母の話を知りたい】

祖父母たちは、「他の人の悩みや喜びが聞けたら、役に立つし励みになる」、「他の祖父母がどんな心配をしているのかという話を聞きたい」と〔他の祖父母の話を知りたい〕というニーズを持っており、孫育児支援活動に参加することでその機会が得られると期待していた。

3) 【自分のペースに合わないと感じる】

祖父母たちは集団指導形式の孫育児支援活動への参加に関心を持ちながらも、〔無事に生まれるまで育児は考えられない〕と理由や、「週末や夕方に集まりがあれば、孫のために行くと思う」、「仕事を休んでまでは祖父母学級には行かない」といった〔都合がつけば参加する〕という考えを持っており、他の都合より優先させてまでは参加しないと考えていた。

表4 孫育児支援に対する反応

カテゴリー	サブカテゴリー	コードの例
情報を基に孫育児の方法を決定する	昔との違いに感心する	・昔のように一から作らなくていいし便利な道具もあってやり易い ・紙おむつだしおしり拭きもいいのがあって、今はほとんどおむつかぶれしない
	今の育児方法を取り入れる	・離乳食は昔と違うので、娘が作って持ってくる物を食べさせる ・虫菌が移らないように、自分が舐めたり一口食べたりしたものを渡さない
	昔の育児方法を選択する	・本を見ると最初から作らなければいけない、味噌汁の汁や具をアレンジする ・娘が神経質にしている自分達まで神経質になることはない
	自分に合った育児方法を選ぶ	・沐浴は慣れている夫に任せようと思う ・あまりこせこせしないでのびのび育てたらいいなと思う

4) 【祖父母同士の交流を求めない】

祖父母たちの中には、孫育児支援活動を他の祖父母との交流の場と捉えた上で「祖父母同士の交流がなくても困っていない」と〔他の祖父母との交流を求めていない〕者もいた。

4. 孫育児支援に対する反応

抽出されたコードは23であり、4のサブカテゴリー、1のカテゴリーに集約された。カテゴリーは、【情報を基に孫育児の方法を決定する】であった。孫育児支援に対する反応のカテゴリー、サブカテゴリー、コードの例を表4に示す。

カテゴリーについて以下に述べる。

1) 【情報を基に孫育児の方法を決定する】

孫育児支援活動で新しい情報を得た祖父母たちは、「昔のように一から作らなくていいし便利な道具もあってやり易い」、「紙おむつだしおしり拭きもいいのがあって、今はほとんどおむつかぶれしない」などと〔昔との違いに感心する〕という反応を示して情報を受け取っていた。

これらの情報を吟味した上で、「離乳食は昔と違うので、娘が作って持ってくる物を食べさせる」、「虫菌が移らないように、自分が舐めたり一口食べたりしたものを渡さない」というように、〔今の育児方法を取り入れる〕という決定をしたり、「本を見ると最初から作らなければいけない、味噌汁の汁や具をアレンジする」、「娘が神経質にしている自分達まで神経質になることはない」と、情報を取り入れることをせず、自分の経験を生かした〔昔の育児方法を選択する〕という決定をしたりしていた。

このように情報を吟味し、自分の孫育児に取り入れるか否かを決定することに加え、自分の孫育児に関連する状況を総合的に判断して、「沐浴は慣れている夫に任せようと思う」や「あまりこせこせしないでのびのび育てたらいいなと思う」というように、最終的に〔自分に合った育児方法を選ぶ〕に至っていた。

VI. 考察

1. 孫育児に関する思いの特徴

祖父母たちは、孫育児や孫の成長を励みにしており、親たちを気遣い支えることを自らの役割と認識していた。これは、エリクソンが「若い世代と関わり祖父母生殖性を発揮することで自我の統合性が達成される」⁵⁾と述べた老年期の発達課題の達成に合致する。祖父母たちは孫育児に参加したいという思いを持ち、孫育児を励みにしている。それは、新しい役割を見出し、その遂行が自己価値の再認識をもたらすからであり、孫育児支援に対する要望にもつながっていると考えられる。

その反面、祖父母たちが加齢に伴う身体的・心理的負担を認識していることも注目すべき点である。久保⁷⁾は、孫を持つ女性の「祖母になること」と定義される「祖母性」には、癒し体験、いきがい、命のつながりなどに加え、「重荷」という側面があることを明らかにした。これは、本研究の結果と一致する。出産年齢の高齢化は、祖父母の高齢化を同時に引き起こす。本研究の対象者も平均年齢が59.9歳であり、70代1名が含まれていた。日常生活に影響する健康障害を有する者も3名であった。孫育児を遂行するためには心身の健康管理が重要であり、その支援が必要であると共に、孫育児への関与が健康増進の動機づけになるような働きかけの有効性が示唆される。

最も大きな特徴は、自分の育児経験と孫育児との比較から、様々な祖父母たちの思いが生じていることである。自分の子どもに対する愛情との比較から孫への愛情を実感したり、自分の育児との比較から親たちの育児に対する気遣いを生じさせた。また、自分の経験と異なる育児方法に出会うことで戸惑いを感じていた。このことから、孫育児に対する思いは、その人の過去の育児経験によって特徴づけられると考えられ、孫育児支援を実施する際にも、その人の育児経験を把握しておくことが必要である。また、過去の経験を生かしてサポートしたい

という考えを持っていることから、新しい育児情報を提供するには自分の経験が有用でないという自尊心の低下を招かないように配慮する必要がある。

祖父母たちが、自らの役割を、育児の当事者の一人ではなく育児の主体である親を蔭ながら支えることだと認識していたことは、これまでの報告と異なる点である。さらに、新しい育児情報を求める理由が、自分自身の育児遂行能力の向上ではなく、親たちとのトラブルを避け良好な関係を保つことが目的であるということも明らかになった。祖父母が望んでいることは、親たちの育児における役割をとって変わるのではなく、最も身近にいるサポーターという役割に徹し、親たちと良好な関係性を築くことである。従来のように、親たちと対立したり、親たちを脅かす存在である懸念が少なくなっていることを示している。

2. 孫育児支援に対する要望について

祖父母たちは、育児に関する新しい情報を求めており、孫育児支援をそれが得られる場ととらえていた。新しい情報の提供者は、看護職者をはじめとした専門家だけではなく、自分と同じ立場にある祖父母も重要な情報提供者と考えており、他の祖父母との情報交換や交流を望んでいた。さらに、新しい情報を求める理由が親たちと良好な関係を持つことであることから、得られる情報が親たちの持っている情報と同じであることを望んでいた。このことから、孫育児支援においては、専門家による正確な情報を提供することに加え、同じ立場にある人たちが持っている情報を引き出し共有すること、同じ情報を親たちに提供したり、共有できるような仕組みづくりをすることが必要であると考えられる。

孫育児支援を必要としながらも都合がつかない場合は利用しないと考えていたり、必要性を感じていないという祖父母がいたことも注目すべきことである。孫育児支援の利用を希望する祖父母はどのような特性を持つのか、利用を考えていない祖父母に対してはどのように関わるのがよいのか、今後検討が必要である。

3. 孫育児支援に対する反応について

祖父母たちは、新しい情報を好意的に受け取っているものの、それを即座に取り入れるわけではなかった。自己の育児経験を基に情報を吟味し、取捨選択をしていた。このことから、新しい育児情報に対する反応も、その人の過去の育児経験によって特徴づけられると考えられ、その人の育児経験を把握し、反応を予測しながら情報の取捨選択を見守ることが必要であると考えられる。そして、自分の育児経験と異なる新しい育児情報を取り入れる時には、過去の経験の否定につながらないように

配慮が必要であると示唆される。

情報を吟味するプロセスにおいて、自分と同様の立場にある祖父母との交流が、孫育児方法の決定を促進していると考えられる。同じ立場にある祖父母が、情報をどのように受け止め、どのように活用したのかを知るとは、自分に合った情報の活用方法の選択に効果的に作用すると考えられる。

4. 孫育児支援プログラムへの提言

本研究で明らかになった孫育児支援に対するニーズから、孫育児を通して祖父母自身のQOL向上が実現するための孫育児支援プログラムには次のようなことが必要であることが提示される。

第一に、孫育児が祖父母のもたらすプラス面の促進を心がけることである。孫育児から得られる喜びや満足感、自己実現を引き出し、認めることが大切である。これらのプラス面が育児経験や人生経験によってもたらされていることを保証することで、経験の価値づけがなされると考えられる。

第二に、育児に関する最新で正確な情報が専門家から提供され、それを親たちと共有できるようにすることである。祖父母が求めている情報は何かを見極めて適時に提供すると共に、親たちと共有できるパンフレットの使用などの情報提供方法の工夫が求められる。

第三に、同じ立場にある祖父母同士の交流を図り、情報の共有、情報の受け止めや反応の共有を促すことである。祖父母同士が自由に交流できる場や時間を設け、感情を共有できるようにすることが効果的である。

第四に、情報の活用方法の決定プロセスや孫育児に関する思いに寄り添うために、その人の育児経験を把握した上で孫育児支援を行うことである。特に、その人の育児経験と異なる育児方法に直面する時には、過去の育児経験が否定され、自尊心が低下することがないように配慮する必要である。

最後に、祖父母の健康状態に留意し、孫育児が負担になることなくむしろ健康増進につながるよう働きかけることである。祖父母が高齢の場合や健康障害を有する場合は特に注意が必要である。

5. まとめ

これまでの孫育児支援は、祖父母に対する育児情報の提供を中心に行われてきた。本研究により、祖父母たちが自己の育児経験とは異なる新しい育児情報を求めていることが確認できた。それに加え、提供する情報を親たちと共有することや祖父母同士の情報共有が有効であること、提供した情報の活用において、一人ひとりの育児経験を考慮した心身の健康増進につながるような継続的

支援が求められていることが提示された。今後は、孫育児支援プログラムの開発に向け、現状の孫育児支援を評価し、祖父母のニーズとの照合を行っていく必要がある。

本研究の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいました皆様に感謝申し上げます。

本研究は、平成20～22年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）「孫育児支援プログラムの開発と実用化の検討」により行った。

引用文献

- 1) 島田三恵子, 他: 産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査-「健やか親子21」5年後の初経産別, 職業の有無別による比較検討-,

小児保健情報, 65(6), 752-762, 2006.

- 2) 白井瑞子, 他: 母のサポートに対する娘(第1子育児早期)の認識と依存性の関連, 香川母性衛生学会誌, 6(1), 29-36, 2006.
- 3) 角川志穂: 子育て支援に向けた祖父母学級導入の検討, 母性衛生, 50(2), 300-309, 2009.
- 4) 宮中文字: 出産・子育てを支える助産ケア: 人と環境の視点から, 日本助産学会誌, 19(1), 71-75, 2005.
- 5) エリクソンE.H.著, 村瀬孝雄, 他訳: ライフサイクル, その完結, みすず書房, 79-86, 1989.
- 6) 稲谷ふみ枝, 他: 高齢者のPsychological well-beingと祖父母機能の関係, 健康支援, 8(2), 106-116, 2006.
- 7) 久保恭子, 他: わが国における祖母の育児支援-祖母性と祖母力-, 母性衛生, 49(2), 303-311, 2008.

GRANDPARENTS' NEEDS FOR SUPPORT PROGRAMS WHILE CARING FOR THEIR GRANDCHILDREN

Kuniko Ishii^{*1}, Narumi Ide^{*2}, Noriko Sato^{*3}, Hiromi Hayashi^{*1}

^{*1}: Chiba Prefectural University of Health Science

^{*2}: Yamanashi Prefectural University, school of Nursing

^{*3}: Graduate School of Nursing, Chiba University

KEY WORDS:

grand parenting, support program, grandparents' needs

The purpose of this study was to clarify grandparents' needs while caring for grandchildren with a focus on the infancy period. The study participants were 11 grandparents who were either expecting the birth of a grandchild or actively participating in the care of a grandchild under 1 year of age. Grandparents were asked to relate their experiences with and opinions of available support programs in semi-structured interviews. Responses were coded and those relevant to the grandparents' needs with respect to caring for their grandchildren were extracted and grouped into subcategories and categories.

A total of 178 coded responses were grouped into 34 subcategories and into eleven categories, including "finding ways to find fulfillment in caring grandchildren", "guidance on how to support their adult children as parents", "guidance on decision-making about how to care for grandchildren based on their own parenting", "ways to cope with physical and psychological burden with respect to aging", "information and skills improvement with regard to caring for infant grandchildren", "opportunities to communicate with other grandparents", and "guidance on decision-making about how to care for grandchildren based on available information".

The needs most expressed by grandparents caring for infant grandchildren were opportunities to obtain current information on child-rearing and to communicate with other grandparents. Grandparents wished to be involved in and to receive encouragement from caring for their grandchildren. The grandparents also wished to be supportive of their grandchildren's parents and, therefore, sought out new information about child-rearing and how to maintain good relationships with the parents. The grandparents used their own parenting experiences when adapting new information about child-rearing, and communication with other grandparents was considered to promote decision-making about how to participate in the childcare of their grandchildren.